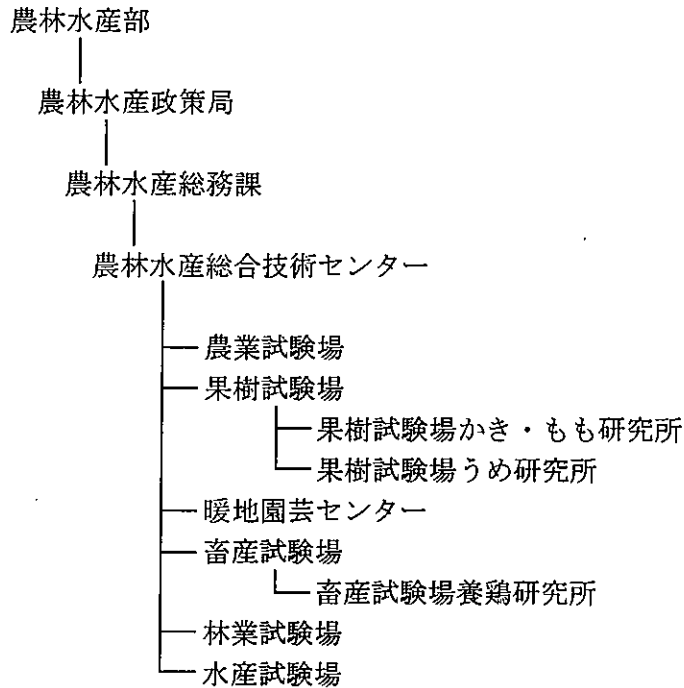


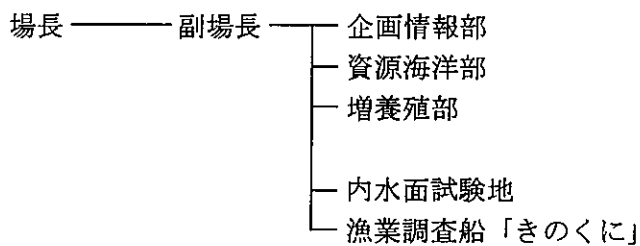
水産試験場概要

I 機構と組織

1) 機構



2) 内部組織



3) 職員の構成

区分	行政職	研究職	現業職	計
場長		1		1
副場長		1		1
企画情報部		2	2	4
資源海洋部		6		6
増養殖部		7	2	9
内水面試験地		4	1	5
漁業調査船	7			7
	7	21	5	33

4) 職員と職務分担

部 名	職 名	氏 名	事務分担
	場 長	木村 創	場の総合企画及び総括
	副場長	吉本 洋	場の総括補佐、人事、服務、庁舎の管理 予算の総括
企画情報部	部 長	吉本 洋	部の総括・企画調整
	(副場長兼務)		
	主任研究員	奥山 芳生	成果の普及・公表、浅海域の環境変化に関する こと
	主査研究員	向野 幹生	低コスト飼料開発、人工魚礁の効果調査に 関すること
	用務員	田所 恵子	庁舎内外の清掃及び雑務
	用務員	田中 千秋	庁舎内外の清掃及び雑務
資源海洋部	部 長	小久保友義	部の総括・企画調整
	主任研究員	中地 良樹	海洋観測、黒潮変動に関すること
	主任研究員	武田 保幸	高度回遊性魚類・まき網漁業に関すること
	副主査研究員	御所 豊穂	卵稚仔調査と漁場長期予報に関すること
	副主査研究員	安江 尚孝	定置網、船曳網漁業に関すること
	副主査研究員	土居内 龍	資源管理・小型底びき網漁業に関すること
増養殖部	部 長	芳養 晴雄	部の総括・企画調整
	主任研究員	濱地 寿生	種苗生産・養殖技術に関すること
	主査研究員	諏訪 剛	藻場造成・藻類養殖に関すること
	副主査研究員	古川 豊和	魚病対策・飼料開発に関すること
	副主査研究員	竹内 照文	〃
	副主査研究員	竹内 淳一	魚病対策・魚類防疫に関すること
	研究員	井川 拓也	魚類の種苗生産に関すること
	現業技能員	佐々木明生	調査研究の補助
	現業技能員	下屋敷 功	設備の保守管理
内水面試験地	主任研究員	藤井 久之	魚類の防疫対策に関すること
	主査研究員	高橋 芳明	アユ資源並びに冷水病に関すること
	副主査研究員	中山 仁志	アマゴ資源に関すること
	副主査研究員	大林 幸造	アユ資源・魚類の防疫対策に関すること
	現業技能員	佐竹 功三	施設整備に関すること
漁業調査船 (きのくに)	船 長	清野 茂	船舶の管理、運航及び海洋調査に関すること
	機関長	辻 正弘	〃
	主査航海士	小西 寛弥	〃
	副主査機関士	鳥居 英希	〃
	副主査機関士	平見 謹一	〃
	副主査航海士	河田 進一	〃
	副主査航海士	住谷 勝志	〃

II 業務

1) 試験研究項目一覧

事業名	予算額 (千円)	財源内訳 (千円)			
		国庫補助	国庫委託	雑入	一般財源
水産試験場費	109,472	1,270	9,500	22,136	76,566
水産試験場運営	16,030				16,030
内水面試験地運営	5,052			1,639	3,413
調査船運航	44,662				44,662
高度回遊性魚類調査	3,200			3,200	
漁業資源・漁場調査と情報提供	14,632	270		12,737	1,625
漁場長期予報 さきどり!	5,257				5,257
低コスト飼料・効率的生産手法開発	9,500		9,500		
藻場再生技術の確立	2,310			1,010	1,300
養殖衛生管理体制整備	2,000	1,000			1,000
アユ資源復元	1,479				1,479
海水温上昇に伴う水産業への影響評価 並びに適応策の検討	1,800				1,800
アマゴ在来個体群の保護と遊漁利用を 両立するための基礎調査	1,550			1,550	
梅酢のアユ飼料への利用効果試験	2,000			2,000	
水産業振興費	1,678				1,678
資源管理課	1,465				1,465
水産振興課	213				213
漁業調整費	60				60
沿岸漁業構造改善費	607				607
沿岸漁業改善資金	25				25
	111,842	1,270	9,500	22,136	78,936

Ⅲ 業績

1 外部に発表した事項

1) 学会誌等論文

内 容	発表者	雑誌名
カツオ漁獲量の年変動	御所 豊穂 竹内 淳一	水産海洋研究, (75). 43-45 (2010)

2) 一般雑誌

題 名	発表者	発表雑誌
・紀伊水道周辺海域におけるマルアジの資源生態と中型まき網による資源管理	武田 保幸 和田 孝史	黒潮の資源海洋研究
・マダイ養殖用飼料の低魚粉化試験とタウリン+フィターゼの添加効果	諏訪 剛 濱地 寿生	アクアネット

3) 和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場研究報告 第2号 発行

内 容

- ・マダイの給餌に伴う窒素・リンの排泄 奥山芳生・高橋芳明・芳養晴雄・木村 創
- ・紀伊水道における小型底びき網の漁獲物組成 土居内龍・竹内淳一
- ・近年の紀伊水道周辺海域におけるサバ類の漁獲動向と海況変化との関係 武田保幸
- ・梅酢投与マダイの抗病性および血中バイオディフェンス機能 堅田昌英

4) 委託事業報告書等刊行物

- (1) 漁海況速報 (週刊)
- (2) 沖合黒潮調査速報 (黒潮横断観測実施ごと発行、2010-No. 1~3, 2011-No. 1)
- (3) 人工衛星画像海況速報 (2010-No. 29~101, 2011-No. 1~32)

5) 農林水産省研究会資料等

題 名	発表者	発表誌
・平成22年度国際資源対策推進委託事業第1回カツオ・ビンナガSG推進検討会（ビンナガ資源来遊動向検討会）	武田 保幸	同会議資料
・瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁海況予報会議	安江 尚孝	同会議資料
・平成22年度国際資源対策推進委託事業第2回カツオ・ビンナガSG推進検討会（カツオ長期来遊資源動向検討会）	御所 豊穂	同会議資料
・平成22年度中央ブロック資源評価会議および太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	武田 保幸 安江 尚孝 御所 豊穂	同会議資料
・平成22年度瀬戸内海ブロック資源評価会議	安江 尚孝 土居内 龍	同会議資料
・平成22年度中央ブロック資源・海洋研究会	武田 保幸 土居内 龍	同会議資料
・第40回南海・瀬戸内海海洋調査技術連絡会	中地 良樹	同会議資料
・平成22年持続的養殖生産・供給推進委託事業（低コスト・効率的生産手法開発事業）中間報告	諏訪 剛	同会議資料
・第2回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議、第3回資源評価調査担当者会議	向野 幹生 中地 良樹	同会議資料
・平成22年度西日本沿岸カツオワークショップ会議及び国際資源対策推進委託事業カツオ・ビンナガSG推進検討会	武田 保幸 安江 尚孝 土居内 龍	同会議資料
・平成22年度関東・東海ブロック水産海洋連絡会	御所 豊穂	同会議資料
・平成22年度国際資源対策推進委託事業マグロ・カツオグループ日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告会	中地 良樹 武田 保幸	同会議資料
・平成22年度持続的養殖生産・供給推進委託事業（低コスト・効率的生産手法開発事業）報告会	御所 豊穂	同会議資料
・平成22年度瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会	吉本 洋 奥山 芳生	同会議資料
・平成22年度漁場環境保全関係研究開発特別部会 赤潮・貝毒部会	向野 幹生	同会議資料
・平成22年度養殖衛生管理体制整備事業太平洋ブロック地域合同検討会	古川 豊和	同会議資料
・平成22年度クエ・マハタ種苗生産研究会	古川 豊和	同会議資料
・平成22年度溪流資源増大技術開発事業第1回検討委員会	井川 拓也	同会議資料
・平成22年度溪流資源増大技術開発事業第2回検討委員会	高橋 芳明	同会議資料
・平成22年度アユ疾病研究部会	中山 仁志	同会議資料
・平成22年度アユ資源研究部会	高橋 芳明 中山 仁志	同会議資料
	藤井 久之	同会議資料
	高橋 芳明	同会議資料

6) 新聞掲載

記事見出し (内容)	載年月日	掲載誌名
・ヒジキの天敵はウニ	2010. 4. 3	紀伊民報
・ヒジキ激減……天敵はウニ	2010. 4. 5	朝日新聞
・アユのそ上増加へ内水面試験地が栄養塩の利用を研究	2010. 4. 5	紀伊民報
・栄養塩利用を研究 内水面試験地 アユそ上量増へ	2010. 4. 6	紀伊民報
・10春の顔④ 生産伸ばすのが仕事 木村創さん	2010. 4. 14	紀伊民報
・近年水準上回る 和歌山水試カツオ見通し	2010. 4. 16	みなと新聞
・クロマグロ養殖現場を視察	2010. 5. 15	熊野新聞
・「トッピー図鑑」完成	2010. 5. 22	紀伊民報
・トビウオの町串本をPR 解説ポスター作成	2010. 5. 28	毎日新聞
・海況予測マップを公開 2ヶ月先の水温や海流を予測	2010. 6. 10	熊野新聞
・低水温 漁業に影響 イサキの水揚げ減	2010. 7. 27	紀伊民報
・とびうお井マップ完成	2010. 7. 30	紀州新聞
・スルメイカ捕れない 平成の半分以下 餌不足が原因か	2010. 8. 6	紀伊民報
・県産親クエから稚魚	2010. 8. 13	紀伊民報
・イカ漁県外取り寄せも検討 するめ〜る大ピンチ	2010. 8. 24	読売新聞
・県産クエ稚魚生産 県水試成功 試験放流へ	2010. 10. 1	読売新聞
・天敵はイスズミ ヒジキ育成実験地で調査	2010. 10. 5	紀伊民報
・「漁業センター」着工 県 串本に3月末完成予定	2010. 10. 20	朝日新聞
・栽培漁業センター起工 県産クエの稚魚量産へ	2010. 10. 20	紀伊民報
・ヒジキ復活など最優秀賞	2010. 11. 19	紀伊民報
・「紀州イサキ」売り込め	2011. 2. 10	毎日新聞

7) 研究発表会

(1) 養殖衛生対策会議

①日 時

平成 22 年 12 月 22 日

②場 所

農林水産総合技術センター水産試験場学習ホール

③内 容

- ・和歌山県における養殖マダイの疾病発生状況について
(発表者：水産試験場 副主査研究員 古川豊和)
- ・水産用医薬品の適正使用について
(発表者：水産試験場 副主査研究員 古川豊和)
- ・串本浅海漁場の漁場環境について
(発表者：水産試験場 副主査研究員 竹内照文)
- ・ヒジキ漁場造成について
(発表者：水産試験場 主査研究員 諏訪 剛)

(2) 水産試験場成果発表会

①日 時

平成 23 年 2 月 22 日

②場 所

紀南文化会館 小ホール

③共 催

わかやま産業振興財団

④内 容

基調講演 海中天気予報の水産利用に向けて
独立行政法人 海洋研究開発機構 理学博士 宮澤泰正

成果発表

- ・和歌山県串本周辺海域におけるカツオの産卵
(発表者：資源海洋部 副主査研究員 御所豊穂)
- ・紀伊水道で増えた魚、減った魚
ー底びき網漁獲データの分析結果よりー
(発表者：資源海洋部 副主査研究員 土居内龍)
- ・波打ち際におけるアユの成長、プランクトン、栄養塩等の関係について
(発表者：内水面試験地 主査研究員 高橋芳明)
- ・和歌山県の魚類養殖における疾病発生状況について
(発表者：増養殖部 副主査研究員 古川豊和)

8) 研修生・見学者の受け入れ

(1) 研修生の受け入れ

串本町内中学生 5名, 県内高校生 2名, 県内高等専門学校・大学 3名

(2) くろしおふれあい講座

① 参加者

きのくにふれあいバス, 県下小中高等学校, 星林高校OB, 神奈川県団体, 海南市農業士会, 串本古座高校 以上 1,012名

② 内容

魚の分類, 海の幸料理・加工, 海藻の分類

③ 見学者

月	漁業関係		学校関係		行政関係		県民一般		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	4	9	1	3	7	23	5	8	17	43
5	6	7	3	26	6	57	8	41	23	131
6	7	9	1	1	4	16	2	4	14	30
7	6	7	4	12	7	67	2	4	19	90
8	14	18	1	4	7	55	3	47	25	124
9	6	6	1	4	3	39	1	40	11	89
10	13	34	0	0	3	57	2	37	18	128
11	3	36	0	0	1	40	1	58	5	134
12	8	35	1	3	2	40	0	0	11	78
1	2	2	1	2	0	0	2	55	5	59
2	5	6	0	0	1	20	1	20	7	46
3	3	56	0	0	2	47	1	1	6	104
計	77	225	13	55	43	461	28	315	161	1,056